

Forest

2012.1.30 3 学年通信 第 16 号



★ 落ちたら終わり？

最近、こんなことをもらす人がいます。

「先生、私、最近、心配でしょうがないの。高校、落ちたらどうしよう？ 落ちたらもう終わりだわ……」

その言葉に「終わりだなんて、そんなことあるわけないよ」と答えます。けれども、そう言っても、その人はやっぱり不安な顔。だから、今回は、「終わりなんてことないよ」と言った意味を、みんなにもうちょっとていねいに話をしてみたくなりました。

科学者の板倉聖宣さん（国立教育研究所名誉所員）の言葉の中で、特に印象的な言葉に、「どっちに転んでもシメタ」という言葉があります。そして、その言葉は、こうして進路を考えている時に、よく思いおこされるのです。ちょっと長いのですが、板倉さん自身の文で、その言葉を紹介してみましょう。

＜転んでもしめた＞という生き方

「私たちが何かをやろうとしてうまくいかなかった場合、＜転んだら大変、失敗したら大変＞なんて思うほど未来のことが見えるのか」というのが私の考えなのです。

私の子どもの頃は中学校が義務制でなかったため、私は一番近くにある市立中学校を受験したのですが見事落第して、私立の中学校に行くことになりました。いまから考えると、「試験の成績があんなに悪ければ落ちて当たり前」とも思えるのですが、そのときはすごく悲しく、また^{ろうばい}狼狽したことを覚えています。……

しかし、いま考えてみると「合格したら幸せ、落第したら不幸なんて、そんなふうに決まっているわけでもなかったの。……」

その後も私はいろいろな学校を受験するなど、なんども＜人生の岐路＞と思われるところに立ったことがあります。大人になるにつれて、「人生の未来はそうそう予見できるものではない」と思うようになりました。

私の落ちたその中学校に合格した人の中には、私の合格した高等学校には落ちた人もいます。ある中学校に合格するのが高校合格への近道とはいえません。多くの人々は、「一流会社にはいるために一流大学には入り、一流大学に入るために一流高校にはいることが大切だ」などといいますが、それは確率論的にも怪しいし、ましてや自分や自分の子どもの場合はどうか、となると全く怪しいといわざるを得ないのです。私は大学院を出て研究所に勤めて以後も、いろいろな岐路に立ったことがあります。そんなときほとんどいつも、「どんなによく考えてみてもどちらに決まったほうがいいか＞私にはわからない」というのが結論になりました。いくら考えても先が見えないとなったら、偶然によって決めてもらうのが一番です。そこで私は、「どちらに転んだら、それぞれどんないいことがあるか」ということを考えて事を運ぶことを覚えたのでした。

私たちは、ときとして「この場合はこうなった方がいいに決まっている」などと思いがちです。しかし、よくよく考えてみると、なかなかそうではないようです。いろいろな条件を考えてみると、たいていの場合<どっちに転んでもしめた>なのです。人間<どっちに転んでもしめた>なのです。

人間<どっちに転んでもしめた>と考えられるようになると気持ちが大きくなります。そして、現実が自分の予想しなかった方向に進んでも、その新しい状況に応じて、有利な点を見出してたくましく生きることができるようになります。

私は、「どんな場合だって <転んだからしめた>という事態を思いつくものだ」と思っています。自分の思うようにならないと、そのつど狼狽する人は、新しい状況のもとで自分に都合のいいことがあっても、それを見逃すことになりがちです。しかし、<どっちに転んでもしめた>と考えられるようになると、ゆとりをもつので、人生も楽しくなってくると思うのですが、どうでしょうか。

(板倉聖宣著『新哲学入門』仮説社より)

おうさだはる

☆ 王貞治(元^ダヤクルト監督)さんの場合は

この話を読んで思い出すことがあります。野球選手だった王貞治さんの話です。王さんは昔、高校受験の時、第一志望の都立工業高校の受験に失敗してしまったのだそうです(注：当時は都立の工業高校は普通科の高校よりも人気が高く、また合格するのも難しかったのです)。そして、王さんは私立の早稲田実業高校に入学します。そこで野球部に入り、エースとして甲子園でも活躍することになります。その後はみんなもよく知っているようにプロ野球のジャイアンツに入り、そこで世界一のホームラン王の記録を作ります。

けれども、もし、王さんが希望どおりに都立の工業高校に入っていたらどうだったでしょう？ 王さんが世界的な野球の選手になっていたとは思えません。きっと卒業したらど

こかの企業に就職していたことでしょう。そう考えると不思議な気持ちになります。王さんが高校受験に失敗したのは、本当に失敗だったのでしょうか？ どうでしょう？

人の人生には失敗なのか、成功なのか、よくわからないことがいっぱいあります。その時には失敗に見えても、後で考えたらその方が良かったと思えるようなことが……。

☆ 人生は失敗一つでは決まらない

少なくとも、中学を卒業して新しい道に進み出すみんなにとって、高校受験に成功することが「人生を決める」ということではないとは、はっきりしていると思います。そして、「高校受験に失敗した」からと言って「私の人生は終わりである」なんて言えるはずがありません。それは王さんの例からもわかることではないでしょうか。そう言えば、大きな発見をしていった科学者などで、学校の入学試験などで失敗した経験のある人が多いのも面白いことだと思います。前に引用した科学者の板倉さんも、入試で落ちた経験があると書かれています。

人の人生は、きっと一つの失敗で決まったりするものじゃなくて、たくさんの失敗に出会いながら、それを転機にしていちばん自分らしい生活をさぐっていくものじゃないかとも思えるのです。それはきっと、失敗がいっぱいあるけど、そのおかげで思わぬ自分の力や興味関心が発見されていく— そういうものなのでしょう。

☆みんなはどんな道を歩み、どんな<シメタ>を見つけていくのでしょうか？